

# アマダイ通信NO. 115

(Tile fish network letter) 2016年 人生紅葉す

## 知人・友人各位

予想外のトランプ大統領の誕生に世界は大揺れ、反グローバリズムと騒ぐ。だが、揺り戻しはありながらも、世界は確実にフラット化に向かう。マルクスが世界革命を予見した時、彼にとって世界とはイギリスとフランス、精々ドイツの3ヶ国に過ぎなかった。資本主義「世界」は広がった。コンピューターによって、複雑な仕事がどんどん単純化、誰でも出来るようになり、人間は単純労働から次第に解放され、火星での居住まで目指す時代だ。単純労働から解放された人類が一つになり、20数億年後、地球が太陽に吸収され消滅する前に、叡智を結集、地球を脱出する日が来るのだろうか？

## ◎二度目の夏スキー、老いてなお！

恥ずかしながら69歳、敬老の日と言われると、自分も年寄りなんだと意識。何も持たず、裸で生まれ、裸で死んでいく。が、人間は社会的動物、歴史の積み重ねも、生を受けた時代、家庭、地域、国等、様々な違いがあり、客観的条件が違う。その上に社会との関わりで、個人の歴史が積み重ねられる。人生の秋、残り少なくなった時間、体力、可能性を生かし、社会的な動物として、多少は人の役に立ち、生を終えたい。

そのためには、先ず体力。幸い一緒にプレーする気のあう仲間がいて、埼玉の小川カントリーをメインに、隔週に一回のペースで、2、3組でゴルフ。爽やかな空気を吸い、緑の中、花や紅葉を愛で、小さなボールを思いっきり叩く。気分転換にはいい、多少は運動になるが、使う時間の割には運動量が少ない。カートに乗らず、歩き通す。柔らかい緑の芝生の上、時に草茫々の斜面も歩く。斜面を直立に歩くには、平坦な芝生の上を歩く時とは違う筋肉も使う。百台突破がままならない腕では右に左に打ち込み、右往左往、運動量は増えるが、それでもスキーには敵わない。冬はスキー。仲間がいる時は奥利根の宝台樹スキー場に車を走らせ、一人の時は短いスキーを担ぎ、新幹線でガーラ湯沢へ。スキーもゴルフもない休日は月島駅前の区民プールに自転車走らせる。目標千m。図書館で経済誌を読み始めると、脳強優先、プールに入る時間が短くなり、千m泳げない。もっと時間が欲しい。平日の営業活動も電車と徒歩、足の運動。

お盆休みに、ガーラ湯沢で初めて夏スキー。ファミリーゲレンデに敷きつめたプラスチックパネルの上を滑る。9月赤く色づき初めたナナカマドを横目に、緑のゲレンデを二度目の滑走。ショートスキーを担ぎ新幹線に。開店と同時に湯沢の新橋亭でそばと地酒。シャトルバスでガーラへ。前回中綿入りのスキーズボンに半袖ポロシャツで下半身汗だく。冬のスキーのインナーのユニクロの赤いヒートテックの長袖、長ズボン、上から速乾性の赤いユニクロの短パンとピンクのチョッキ、ピンクのゴルフ帽の珍妙なスタイル。半日でリフト19本分滑る。同じような格好で、お腹を大きく突き出し滑るオジサンに吹き出すが、他人を笑ってる場合じゃない。もっとお腹を引き締めよう！夏の体強メニューが増える。

## ◎ミライは水素自動車か？電気自動車か？

10月半ばの土曜日午後、ホームカミングデーの母校、本郷へ。夕方、イベントを楽しんで帰る人の群れ。大七などOBの酒蔵オーナー10社ほどによる利き酒会や教授、OB経営者などによる講演など面白いイベントが盛り沢山。年々参加者が増えている。卒業後45周年の同期会へ。出席が33名、同年度の入学者の丁度1%。OBの母校に対する帰属意識、愛校心は一般的には強くない。S41年入学、「T大解体」を声高に叫んだ、万年卒業生候補の落第生●が、S46年の卒業生に、今年も大きい顔で仲間入りする噴飯もの。

正門から安田講堂につながる銀杏並木に、トヨタが水素電池車の「ミライ」を展示。水を水素と酸素に電気分解して出来る水素を更に酸素と反応させてつくった電気でモーターを回し車を走らせるが、直接電線から充電、蓄電池に貯めた電気でモーターを回し車を走らせる方がエコロジーでエコノミーじゃない？下手すると爆発する水素をタンクに詰めて運び、新しく水素スタンド網をくまなく造るより、今ある電線から蓄電池に電気を貯め、モーターで車を走らせた方が合理的ではないかと、係員に年来の疑問をぶつける。

電気自動車は航続距離が短く充電に時間がかかる。製鉄で石炭を蒸し焼してコークスをつくる際に出来る水素のように、産業の副産物として出来る水素が余っているというが、一回の充電で500キロ走る車もある。それだけ走れば充分。主流のリチウムイオン電池より容量も大きく安い、マグネシウム電池など、新しい電池の開発も進む。充電時間も技術が進めば短くなる。水素の需要が増えれば、産業の副産物の水素だけでは不足する。電気自動車が出遅れば、トヨタの屋台骨も揺らぎ、日本経済にも悪影響を与えるのではないかと余計な心配もする。最近の報道では、トヨタも本格的に電気自動車の開発・生産に取り組むという。つなぎの技術としてのハイブリッド車の次は電気自動車で決まりということか？電気自動車の普及と技術開発は更に急速に進むだろう。

## ◎20年振り、旦那の多いお妾さん！

40歳で●がフリーターを止め、サラリーマン稼業を始めたミサワホームでの同僚加賀屋さんが、いわきで社員30人弱、年商50億円の建設資材などの販売会社「共栄(株)」を経営、この会社と顧問先の鉄鋼商社阪和興業をつなぎ、道路の復旧・拡幅工事や常磐線の復旧工事、復興住宅の工事が盛んないわきで、鉄筋などの供給のお手伝いを一緒にしたいと、スーパーひたちに2時間ほど乗る。常磐道を走るよりはるかに早い。

●が仲立ち、夕方料理屋で「契りの盃」。施主とゼネコンへの営業は●が先鞭、メーカー直結、一次代理店の阪和興業がいわきの地元の二次代理店共栄に卸し、ゼネコンの現場に鉄筋などを納める仕組み。翌日小名浜カントリーで懇親ゴルフ。雨降りしきるアウエーでのスコアは、久しぶり120の大叩き。ここでもカートに乗らず一人歩き通す。

長い学生生活をベースに培われた顔の広さを資源に、万営業支援の●、色々な会社と顧問契約を結び、毎月の喜捨と大願成就のお布施で生業をたてる、一人商社、今では死語だが、旦那の多いお妾さん。事務所代やアシスタントの件費、通信費などの諸費用、飲み代も自前で、他にも色々物要りだ。丸抱えしてくれる太っ腹な旦那がいればONLYさんになれるのだが、この世知辛い世の中、そうは問屋が卸さない。●にとっても旦那が一人だけだと窮屈、万が一の時困る。今風にはリスク分散というやつか。節操がないと、目くじら立てる方もいるやも知れぬが。平安時代の貴族の娘のように、通い婚で自由に恋がしてみたい。それも経済力の裏付けあつてのものだね。源氏物語の女御様が羨ましい。

定めなき我が身衰れ、つい愚痴になるが、安定したサラリーマン人生の筈でも、最初の船会社が倒産、ミサワから転職、社長に出世した一部上場の建設会社も破綻、津波のような波乱の人生を歩む、スマートが本領の慶応ボーイと、最初から安定した社会生活を捨てた筈の無頼の●が、20年振りに手を握り、多少とも社会の役に立てるのは嬉しい。定めなき浮世であれば、人間関係の大切さがひとときわ身に沁みる、人生の秋に。

### ◎白神山地に少しガッカリ

半年交替の●の次の三鷹寮委員長が、元環境庁No.2の地球環境審議官、青山学院大学教授で小池都知事のブレーン、都庁顧問の小島弁護士(S42年入寮)。その次の寮委員長(S43年入寮)で、統一教会・勝共連合による靈感商法の被害者救済などで活躍する人権派弁護士、鹿児島出身の山口君から以下のメール。加藤八峰町長にも転送。

「干場さん、いつも楽しく、また有意義な情報をありがとうございます。なかなか参加できませんが読んでますよ。

ところで、10月初め東北歴訪の旅をして、男鹿半島から白神山地を歩こうとしたところ、東能代から八峰町方面は列車が少ないし、バス便もほとんどなくて本当に人気のないところで、地元の人にはレンタカーやマイカーで登山口まで行って帰ってくるのが当然の扱いでした。特急の秋田白神駅で降りたら、タクシーがあるだろうからタクシーで登山口まで行って、そこから1時間歩いて二ツ森山頂に行こうと企画して、特急駅に降りたらビックリ。能代からタクシーを呼ぶしかないというのです。2万1000円タクシー代払った贅沢な登山になりました。山頂からの眺めは素晴らしかったのですが、一応納得ですが天下の干場も地元の白神の人気のなさは如何ともし難いのでしょうか。まあ50年後も秘境として残るのもいいかもしれませんが。

弁護士 山口 広

過疎化に悩む僻地では共通の問題だが、鉄道があっても朝夕の時間帯以外の、観光客を含め、交通弱者の足をどうして確保するか？ライドシェアのシステムなどが議論になるが、加藤八峰町長からの返事は、前以て町に連絡して下さい、足は用意してありますとのこと。●に連絡して下さい結構です。海あり、山あり、清流あり、四季折々に美しく、酒も魚も、山菜や茸、人情も美味しい、●の故郷を皆さん是非、楽しんで下さい！

### ◎2着セール、灯台下暗し

お中元シーズンを過ぎ、夏物を売り切るセールの真最中。正価ではデパートのスーツに中々手が届かない。長いことスーツを買わないし、今買えば10年、20年は！？着られる(米寿まで生きる積り！？)。人生最後の！？サマースーツの買物。紺や黒のドブネズミリックは飽きた。赤いチャンチャコの還暦を遥かに過ぎ古稀だから、茶や緑で気に入ったのがあれば買おう！あわよくば二着セールで両手に花を！と、仕事帰りにデパートへ。

40歳でサラリーマン始めた時はAの4だったが、途中で大手術、ウエストにハサミを入れ広げ、今まで長生きしているのもあるなど、店員と話しながら品定め。生身のお腹も30センチ切り、大腸も30センチ切除、郭清したリンパ腺9ヶ所中3ヶ所にがんが転移、余命半年、ほとんど治癒する見込無し(岩波新書「胃がんと大腸がん」)のステージIIIbの大腸がんからも術後15年だなどと感慨に耽る。勧められるままAB5の茶のスーツを着てみるが、パンツのウエスト、上着共に窮屈。お客さんならAB6でも大丈夫ですよ、とオバチャン。

大きなサイズを差し出す。緑はないの？探して貰うがない。在庫一掃の二着セールだから、サイズも色もは無理か？ページュのスーツ1着だけ買う。

ついで買いのオレンジのネクタイを締め、マンションを出る。運河を跨ぐ歩道橋、朝潮小橋、普段使わない筋肉を使い、階段を二段跳び。膝が窮屈。突っ張る。足下に行くに従いインツの幅が狭くなる。若者の着るスーツやパンツが随分スリムになって、窮屈そうと傍目に心配していたが、よもや自分がその憂き目に合うとは！関心はウエストまでで、その下までは考えなかった。灯台、下暗しとはよく言ったものだ！

### ◎小市民的幸せにどっぷり

毎朝、1歳8ヶ月の孫息子と愉しく同伴出勤。マンション31階の娘の部屋から、植栽豊富なペデストリアンデッキに面した3階の保育園に移動するだけだが、楽しい。乳母車にカバンを2つ載せ、早や酔っ払い予備軍！？千鳥足の孫と会話ならぬ対話、アリや蝶々を観察、花を愛で、同伴出勤。要らないと言わないから、娘にも少しは役に立っているのか。最近では出張も午後からにするとか、無意識に同伴出勤を優先する自分を感じる。

誰かのために役だっていると感じられるのは幸せだ。人間を搾取、差別、疎外する資本主義と闘い、地球から搾取と差別、疎外を追放、地上に樂園を創る！人類のために！意気軒昂としていた時は、死をも厭わない。デモの先頭で機動隊と衝突、押されて倒れた我が身の上を機動隊が駆け抜け、俺も終わりかと思いながら、あれ！生きている！暫くして意識を回復したことも。今、誰かのために死ぬるか？と問われれば、多分、この小さな命のためなら、余命を惜しむことはない気がする。

革命少年が唾棄すべき対象と蔑み、打破せよ！と叫んだ、小市民的幸せにどっぷり浸かる。打破すべきはただ、その拮がりの狭さだけだったのか？

## の黄土高原植樹紀行Ⅱ・・（'16. 8. 26 ~ 9. 1）

### ②南天門に登る

2日目、4時頃目をさましシャワーを浴びる。かろうじてぬるま湯が出る。水道の蛇口をひねり、備え付けのポットでお湯を沸かし、持参のインスタント味噌汁を飲みながら、ガラ携に紀行文の続きを打ち始める。今回は未完成の5月の連休のニュージーランド紀行も完成させようと、「地球の歩き方・ニュージーランド」まで持参した。頑張らなくっちゃ！

5時を過ぎ、夜が明け始めると、沢山石炭を積み込めるように、荷台の囲いを高くした大きな石炭トレーラーが動き始める。ホテルの前のロータリーを空のトレーラーが、左から来ては右に、次々と消える。昨日も北京からの道を沢山の石炭車が走っていたが、経済減速で厳しいのだろうか？ホテルの周りには中高層のマンション群が建ち並ぶ。石炭で儲けた「石炭王」がそのタネ銭を提供したという。建築途中の高層マンションも沢山あるが、景気に陰が見られる現在、これらに取りつくタワークレンは動いているのか？道中の高速道路のサービスエリアも、トイレと小さな売店は開いていたが、スーパーとホテル、ガソリンスタンドは閉鎖したまま。明らかな過剰投資、バブル。5年前、別の高速道路の大同手前のサービスエリアも同様だった。教訓が生かされていないのか？

朝食はビッフェ。昨夜は3階のレストランで、2つの個室に分かれての宴会だったが、

朝食は1階の大レストラン。海鮮料理が売りなのか、奥の壁一面に魚貝の水槽。沢山のアワビが張り付く水槽も。習近平の綱紀粛正下でも山奥の街で、豪勢にアワビを喰らう者がいるのか？美味しそうなアワビを横目に、動物蛋白はソーセージとゆで玉子だけ、野菜主体の朝食を楽しむ。玉子スープと珍しいケチャップ味の鶏肉つゆうどんが美味しい。

ホテルから見える観音山が標高2千2百mという大行山脈山中の南天門植物園へ。太古の地層が表出した断崖絶壁を縫う様に走る。溪流の水は今年は結構多い。地層の軟らかい部分から草木が広がり、緑と茶の縞模様が、高く、長く蛇行する。中々の景色。溪流が、我が故郷白神山地のように、碧に透き通ればなおいいが、山紫水明の絶景には今、一つ。河北省とつながる峠越えの一本道、片側一車線の国道は、事故などで渋滞すると後続車が我先にと反対車線に殺到、更に身動きが取れず2、3日の立ち往生も珍しくない。どこからともなくリアカーやバイクの物売が現れ、側溝は排泄物ででんこ盛り。新しい高速道路が出来て様変わり、全然混まなくなり、物売りはどうしているのか？国道の拡幅工事があちこちで進められ土煙が凄まじい。植物園への入口、川を渡った所に、道路工事目当てに大きな採石場がつくられ、出入りする大型ダンプカーの上げる土埃が又、凄まじい。中国はリーマンショック後の巨額公共投資のつけに苦しむが、バブルの後遺症はバブルで解決するしかないのか？公共投資は交通・通信網を急速に発達させ、中国を小さくして行く。大同にも20年には新幹線が通るので、各地で橋脚などの建設工事が進む。土地の収用に時間がかからないので、ことが決まれば早い。

採石場を通り抜け、石ころだらけの沢道を植物園に。トウモロコシの段々畑がきれい。道路脇には地元の南庄村の人達が植えた松が育ち始める。1時間ほど歩いて着いた植物園で、流行りの病気で枯れかかる柳の代わりに松やナラを植え、カップラーメンとゆで玉子のお昼。麓の南庄村の放飼いの地鶏、一般の3倍の値段で売れる。危険な食べ物も横行、中国人の食の安全に対する意識は高い。食後南天門植物園に登る。樹木も疎らな岩山で、山羊や羊を放し飼い、樹木を燃料に細々と生活を立てていた村人が、水不足もあり、一人去り、二人去り、誰も住まなくなると、山羊や羊も入らず、少しずつ植生が回復。緑の地球ネットワークの植樹活動も奏効、鬱蒼と形容するまでは行かないが、濃い緑の森が山頂まで広がる。JICAの援助でつくられた狭い林道を歩く。両脇に植えられた松やナラが背丈をはるかに越すまで育ち、5年前と違い両脇から林道を狭める。初めて標高千3百m余の、天国に通じる入口という『南天門』の名を持つ山頂に。植物園のセンターが標高9百mだから、4百mの標高差に登る。ゴルフでカートに乗らず歩くのも、スキーで急斜面を滑り降りるのも、苦にならないが、山登りはきつい。

山頂から見下ろす。陽当たりの悪い北斜面の緑が濃い。南斜面は陽差しが強く、水分の蒸散も激しく木が育ちにくい。北側斜面は水分の保持が良く、光合成に必要な水も十分に確保される。国道の反対側の削られた山肌は鉄鉱石の露天堀。石炭を始め地下資源が多く、先の大戦の始めに日本軍国主義は真っ先に攻め込む。見遙かす反対側の山波は心なし緑が薄く、茶色っぽい。帰途、沢道は歩きにくい。峠道を通る。麓の南庄村の入口の道の石組に腰を下ろし、村人達がひがな一日、談笑するのが見えた。南庄村の縁側と呼んでいたが、その縁側を通る。豊かさと引き換えに我々が失った、人のつながりの裕さ。日干しレンガを積み上げ、石を並べた屋根の、狭い粗末な家と、そこでの生活は余り変わっているように見えないが、村の真ん中を通るかつての泥んこ道は、コンクリートで舗装されている。

確かな変化だ。採石場から先は、砂ぼこりを浴びながら、来た道に戻る。たっぷり浴びた砂ぼこりを、ホテルの温かいシャワーで流す。労働省と連合を一緒にしたようなカウンターパートナーの総工会の、県の主席は小さいカップの白酒を片手に乾杯（カンペイ）を繰り返すが、かつてほどではない。習近平主席の『儉約令』も、飲みたい時は自分の金で飲めばいい。無理に付き合わなくてもよくていいと、意外に歓迎されている面もある。

### ③乾杯！乾杯！又乾杯！

3 日目は、植樹の杏で村興しをする呉城村のある渾源県を目指す。5 キロ以上の長さのトンネル2つを含め、いくつものトンネルを抜ける。鉄鉱石や石炭などの地下資源が多く、露天堀の鉱山を幾つか見掛ける。先ずは途中にある縣空寺の見学。付属の建物も増え、施設内もきれいに緑化されている。目指す断崖絶壁に懸かるお寺への参道は列をなし、大渋滞。高所恐怖症の●は登るのを諦め、木陰で紀行文を打つ。

呉城村では見渡す限りの杏畑の見学。前回5年前と同じ場所から深い侵食谷を挟んだ杏畑を見遙かす。軟らかい黄土を雨が穿ち形作られた、百m以上は優にある侵食谷の底に生える木々の濃い緑は、5年の間に随分背丈を伸ばしたようだ。杏の収穫が始まり村からも各地の大学に進学する者が輩出。子供達も希望を持って勉強するようになったという。多分、戦後日本が、豊かになるにつれ、日本各地から、東大を頂点とした有名大学に若い才能を集め、エリート支配層を分厚くして行ったのと同じメカニズムが働いているのか？自分の出自に戻ることはないだろうが、貧しい農村の人口を間引き、残った者の土地を初めとした取り分を増やし豊かにし、国全体が豊かになることに貢献する事で、故郷の発展にも貢献する。そうあって欲しい。

数百ヘクタールに植えられた、数十万本の杏は3千万円の富を村に毎年もたらす。日本の感覚からするとそれほどの金額にも思えないが、大同の城区（市街地）の平均的サラリーマンの月収4、5万円からすると凄い金額だ。これが上乘せされるのだから、生活が劇的に改善される訳だ。大同市内はあちこち工事中で回り道。予定の桑干河は見学出来ず。ホテルで現地のスタッフを交え、乾杯！乾杯！又、乾杯！

### ◎東大三鷹クラブ第129回定例懇談会のご案内

牟田博光君はなんと今（9月11日現在）、ミャンマーの首都ネピドーのジャングルの中の役所に居る。軍事政権時代から、ミャンマー政府の外国人顧問として、明治時代の欧米人さながらに、現地の人材育成に尽力している夢多き仕事を69歳の今も続けて3年になる。彼を日本で捕まえるのは非常に難しい。365日のうち200日はネピドー。ミャンマーが国際社会に復帰しアジア最後のフロンティアとして今後の発展が期待される中であって、現地政府に深く食い込んで信頼厚い彼の存在は我が国にとっても貴重な宝である。

今回講演をお願いして実現するまでに半年近く掛ったが、今も毎日報道などで話題になるミャンマーについて生の情報を彼の口から聞けるのは楽しみである。そもそものミャンマーとの馴れ初めは？何が彼を駆り立てるのか？まさかアウン=サン=スーチーさんとの秘密があるとは思われないがひょっとしたら？11月の講演が待ち遠しい。

牟田博光君との出会いは50年以上前昭和40年（1965年）の三鷹寮入寮当時に始まる。

彼は九州久留米大学附設高校出身の現役理科 I 類入学、私は大阪堺の三国ヶ丘高校出身、1浪で文科 I 類入学、最初の部屋は彼は東寮の奥の 1 階、私は入り口の 2 階の 13 / 14 室であった。属性上はあまり接点が無かった筈だが、いつの頃からか多分コンパやストームで一緒になって騒いだりする悪仲間の付き合いが多かったのだろう。

当時の理科の寮生の多くは出席必須科目が多く真面目に朝 1 番のバスで通学し、夕方戻ってくる。文科系の私は語学と体育を除けば出席不要、惰眠を貪り、残食（残り飯）に並んでタダ飯を食い。すきっ腹を抱えて昼寝をし、試験前だけ勉強して、寮生活の大半を三鷹寮内で過ごしていた。ということは、彼は少なくとも理科学生らしく無い学生生活、寮生活を過ごし、多くの時間を寮内で過ごしていた。私と彼の接点が多かったということは彼も文科系と同様の怠惰な学生生活を送っていたということだろう。彼の履歴書を見ると 1971 年 6 月卒業とある。出席不良、語学の単位不足で 2 年留年している。成績不良故に理科系の学部への進学を諦め、教育学部に進学し卒業している。

寮を出てから、私は駒場で教養学科に進み、彼は留年ということでその後の接点は途切れていた。特に私が国際派銀行員としてサラリーマン生活の大半を海外で過ごした所為も有って、彼と再会したのはなんと 21 世紀になってから、寮を出てから 40 年ぶりのことである。何と彼は東京工業大学教授の名刺を配っていた。受け取った仲間は異口同音に、君が教授か？と面と向かって軽口をたたいたものである。東工大ではあろうことか理事・副学長にまでなり、定年退官したら悠々自適かと思ったら、或る年、今度は彼は何と英語の名刺を出してきた。読むと Policy Adviser to the Ministry of Education, The Republic of the Union of Myanmar と書いてある。良く有る体裁だけかと思ったらトンデモ無い。年間 200 日をミャンマーで過ごす大活躍なのである。

この大变身、大出世の秘密はどこに有るのか想像を巡らす、彼の学問的才能もさることながら、三鷹寮の掃き溜めで鍛えた政治力故かと密かに思っている。(昭和 40 年入寮 辰紘)

日時：平成 28 年 11 月 24 日（木） 18 時 30 分～21 時（開場 18 時、会食 18 時 30 分～）

場所：学生会館本館 320 号室（千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：6000 円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）、別途、講師参加で二次会。

定員：80 名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません。会場変更で余裕あり）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

## ◎「タニマチ」のつもりが

三鷹寮は旧制一高の伝統を引き継ぐ自治寮。寮生の入寮審査から風呂や食堂、売店経営、入退寮時の歓送迎会、寮祭、運動会、近隣の女子大学生寮とのダンスパーティーなどのイベント開催など、寮生活の一切が寮生の自治に委ねられ、寮生は大人の扱いだ。8 人が一部屋で寝食を共にする。寮生の自主的な活動を通じ相互に交流を深め、切磋琢磨、人間関係の処理の仕方を学び、ネットワークを形成する。謂わば自治の学校。

自治活動のクライマックスが 60 年代後半の東大闘争。全国の国立大学の寮は学生運動の拠点と化し、東大全共闘の拠点三鷹寮で●は 300 名の寮生の先頭に。闘い敗れ、時流れ、90 年代初頭、学生運動の拠点化することを怖れた大学によって建て替えられた三鷹寮は全部個室、浴場も食堂もない、大学管理のワンルームマンションの筈が管理もなし。せめて、

飲んで胸襟を開き、交流を深め、人間関係の処理の仕方を学び、ネットワークを形成、いづれ社会のために役立てて欲しい。かつての自治寮が果たした自治の学校としての役割の万分の一でも果たせればと、節目、節目で同窓会の東大三鷹クラブを代表、三鷹クラブ差し入れの寿司桶片手に寮に顔を出し、寮の外で寮生に食事を振舞い、酒杯を交わす。

今秋も寮で交換留学生歓迎会。駒場で一気飲み死亡事件があって以来の禁酒令。アルコール抜きでは氣勢が上がらない。終わってから近くの、かつての駒場共闘の仲間小川健太郎君がオーナー経営者のゼンショウ傘下、華屋与兵衛に寮生を誘い、食え！飲め！と大盤振る舞いの予定が、既に予約で一杯、席がとれず。あらためて駒形どぜう渋谷店を予約。

### ◎久しぶり「味は文化です」

10月29日(土)夕方、駒形どぜう渋谷店へ。03年入寮の落語家の春風亭昇吉君も誘い院生、留学生含め寮生17名にどじょう鍋、どじょうの柳川、鯉のあらい(刺身)、鯉こくならぬどじょう汁をご馳走。日本酒も振る舞う。「『味は文化です』秋季編」。自国の文化を知ること、国際交流も深まる。世界広しと言えど、淡水魚を生で食べるのは日本だけか？日本人寮生もドジョウも鯉も初体験。大陸、香港、アメリカからの留学生も勿論初体験ながら、美味しい！と喜んで食べてくれる。鯉を食べて恋をしよう！と駄洒落を飛ばし交流、盛り上がる。終わって店を出ると渋谷はハロウィーンのお祭り騒ぎ。

参加者は、吉岡 純矢(2014・院)・総合文化研究科・北海道・札幌南)、赤間 建哉(2015(院)・法学政治学研究科総合法政専攻・宮城・仙台第一→国際教養大)、北條 新之介(2015(院)・総合文化研究科地域文化研究専攻アジア科中国・栃木・真岡→東北大)、高田 夏輝(2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、平松 彩人(2015・理Ⅰ・愛知・一宮)、横字 史年(2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、張 喩(建築修士1年・中国・武漢大学)、王 澤辰(2016・国際本部 USTEP・中国(大連))、KO HIU TUNG(2016・日本語日本文学国語学・香港・香港中文大学)、岩坪 未矩(2016・文Ⅲ・鹿児島・ラサール)、片岡 丈人(2016・文Ⅱ・青森・弘前)、神長 憲悟(2016・文Ⅲ・茨城・水戸第一)、小林 義信(2016・理Ⅱ・茨城・水戸第一)、中野 創介(2016・理Ⅱ・大阪・灘(兵庫))、八野 圭晃(2016・理Ⅱ・兵庫・灘)、檜枝 悠太(2016・理Ⅰ・兵庫・東大寺学園)、Alexander Lin(プリンストン大学 比較文学部3年・アメリカ・The Lawrenceville School)、OBが國枝 明弘【春風亭昇吉】(2003・文Ⅱ 経済・岡山・城東)、干場 革治(1966・文Ⅰ・秋田・能代)

本日のどじょう鍋、大変ご馳走さまでした。正面に座らせていただいた東大院法学政治学研究科の赤間です。なかなかどじょうを食べる機会もありませんし、このような縦と横のつながりを深めるような場を作っていただき、本当にありがとうございます。来年春より日本経済新聞社に記者職で入社しますが、給料が入りましたら三鷹クラブにも是非入らせていただきたいと思います。何卒、よろしく願いいたします。改めまして、本日はありがとうございました。

赤間 拝

### ◎終わりに

パソコンよりも携帯の方が打込み易いのは思考テンポが、ガラ携の片手、親指打ちに合っている、思考回路がガラパゴス化しているからか？寮生と違いアルコール抜きでは盛上がれないのも、思考回路の違いか？禁酒国イランのレストランの盛上りを想う。再見！